

ごせんえきしゅうへん

五泉駅周辺地区

(新潟県五泉市)

- 計画期間 平成25年度～平成30年度
- 面積 42.5ha
- 交付対象事業費 1404.4百万円
- 市人口 47,776人

ポイント

公共交通結節点としての五泉駅周辺における交通機能の改善
にぎわい再生のため、人の集まる活気ある空間の創出

地区概要

市民生活に必要な不可欠な公共交通機関の拠点である五泉駅周辺は、利用者の満足が十分に得られていないのが現状である。
五泉駅周辺地区の交通機能の改善と利便性の向上、また地域の居住性の維持向上を図る。

目標

五泉駅周辺地区において、交通機能の改善と、にぎわい再生を図る。

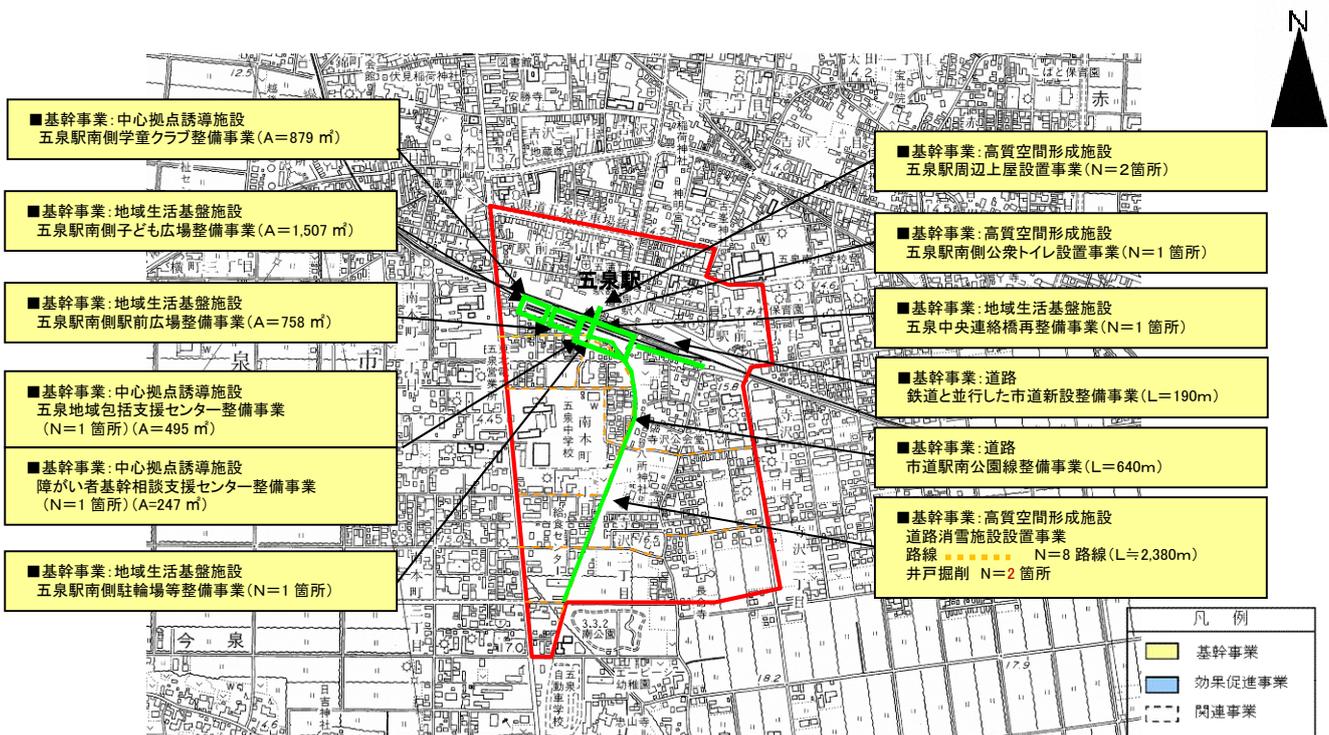
指標

交通機能の改善と、にぎわいの再生という観点から、五泉中央連絡橋通行者数、商店営業店舗数、地域包括支援センターにおける利用者数を指標として設定した。

項目	単位	従前値	→	目標値	→	評価値
五泉中央連絡橋通行者数	人/12h	533 (H23)	→	600 (H30)	→	435
商店営業店舗数	件	57 (H24)	→	60 (H30)	→	60
地域包括支援センターにおける利用者数	人/年	300 (H24)	→	350 (H30)	→	2240

事業内容

基幹事業 (1404.4百万円) → 鉄道と並行した市道新設、市道駅南公園線整備、五泉市中央連絡橋再整備、五泉駅南側駅前広場整備、五泉駅南側駐輪場等整備、五泉駅南側子ども広場整備、道路消雪施設設置、五泉駅南側公衆トイレ設置、五泉駅周辺上屋設置、五泉地域包括支援センター整備、障がい者基幹相談支援センター整備、五泉駅南側学童クラブ整備



地区の現況と課題

【現況】

平成 18 年 1 月に旧五泉市と旧村松町が合併して、現在の五泉市が誕生した。

集約型の都市構造の実現をめざし、新しい五泉市の活力あるまちづくりをすすめているところではあるが、かつて地場経済を支えた繊維産業は衰退したままであり、農林業においても難しい経営を求められているのが現状である。

その中で五泉市の玄関口である五泉駅は、県都と周辺地区を結ぶ重要拠点であるにも関わらず、施設等の市民の満足度は低く、利用者や運行便数が減少傾向にあるのが現状である。

さらには平成 11 年 10 月にかつて村松—五泉間を運行していた私鉄蒲原鉄道が廃線となり、その跡地利用について市民の関心も高かった。

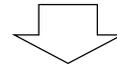
また五泉駅周辺の少子高齢化は五泉市内でも顕著であり、特に商店街における人口の流出や担い手不足などの影響により、高齢化が急激に進んでいるのが現状である。

【課題】

五泉駅周辺地区において、公共交通結節点としての機能強化、福祉環境・機能の強化を進め、五泉市の中心市街地として安心安全な環境整備及び活性化を図る必要があったなか、「五泉市中央連絡橋再整備」や「市道駅南公園線整備」等により交通機能の改善と利便性の向上が図られた。また、「五泉地域包括支援センター整備」、「五泉駅南側学童クラブ整備」、「五泉駅南側子ども広場整備」等で人の集まる拠点の整備を行ったことにより、にぎわい再生の空間を創出した。



▲ 整備前の五泉駅周辺の様子



▲ 中央連絡橋と五泉地域包括支援センター



▲ 学童クラブ及び子ども広場

計画策定プロセス

五泉駅周辺整備市民懇談会

五泉市総合計画および都市計画マスタープランで示されるまちづくりの方針に基づき、市民参加型まちづくりとして、平成 23 年に 4 回にわたり市民懇談会を開催した。

五泉駅周辺地区における現況と課題を整理し、今後の目標及び具体的に取り組むべき実施事業についての検討がなされた。

地域の声を反映しつつ、官民一体となって取り組むため、五泉駅周辺整備計画が策定された。



▲ 五泉駅前のにぎわい（きなせや祭り）



▲ 五泉駅周辺整備市民懇談会の様子